

第11回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、2月12日(金)、野依記念学術交流館において、社団法人キタン会と共催で、第11回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。

同セミナーは、地域に開かれた研究活動を推進することを目的として開催されたもので、今回は、金井経済学研

究科長及び岡田邦彦キタン会会長の開会のあいさつの後、前田純一日本銀行名古屋支店長による「最近の金融経済情勢について」と題する講演が行われました。

前田支店長は、昨年の景気情勢、物価情勢を振り返り、どん底からスタートしたが春以降は持ち直しの動きがみられること、それを牽引したのがエコカー購入支援策等により支えられた自動車販売だったこと、ただし設備・雇用の過剰感が引き続き大きく、未だ自律的な回復はしていないことなどについて説明しました。さらに、今年の展望として、景気は基本的には持ち直しを続けるが、年の前半は海外におけるエコカー購入支援策の終了なども影響して、持ち直しペースが幾分鈍化する可能性があること、中国を中心とする新興国経済の成長維持と米国経済の回復に期待しているが、不確実性が大きいことに留意する必要があることなどについて述べました。

景気の先行きが大きな関心を集めている時期ということで、100名近くの参加者は熱心に聞き入っており、講演後には、今回の危機の原因などについて活発な質疑応答が行われました。



講演する前田支店長